

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

| | | | |
|--------------------------------------|--|--|------------------------------|
| 会議名 | 第 38 回木津川市地域公共交通総合連携協議会 | | |
| 日 時 | 平成 29 年 11 月 22 日 (水) 午前 10 時 00 分～午前 11 時 40 分 | 場 所 | 木津川市役所 第 2 北別館 2 階会議室 |
| 出席者 (出席者…■) (欠席者…□) | 委 員 | <p>【学識経験者】</p> <p>□中川 大 (副会長)、 ■大庭 哲治委員 (議長)</p> <p>【市民代表】</p> <p>■杉本 美保委員、 ■占部 禎佑委員、 ■福本 桂子委員、 ■神野 勝三郎委員、 ■大村 裕信委員、 ■平田 克子委員、 □久保 恭子委員、 ■今西 邦雄委員、</p> <p>【事業者】</p> <p>■長澤 卓夫委員、 ■森本 治実委員 ■後藤 秀雄委員 ※代理:橋本 倫尚 (奈良交通株式会社乗合事業部課長)、 ■津田 秀夫委員 □近藤 智彦委員、 ■大江 正泰委員、 ■梅田 幹夫委員、 □加藤 隆委員、 ■霜永 勝一委員 ※代理:宮森 誠治 (奈良県交通運輸産業労働組合協議会幹事代理)</p> <p>【行政機関】</p> <p>■清良井 利之委員 ※代理:神山 剛 (近畿運輸局京都運輸支局) □菅沼 幸江委員 ■山本 勇人委員、 □山本 克委員、 ■梅田 学委員 ※代理:馬庭 清 (木津警察署交通総務係長) □河井 規子会長、 □田中 達男委員、 ■若狭 朝明委員</p> | |
| | | その他 | <p>【オブザーバー】</p> <p>□安江 亮</p> |
| 事務局 | 福島政策監、武田事務局長、奥田事務局次長、富井係長、森川主任、宮本主任 | | |
| 傍聴者 | 3 人 | | |
| 議 題 | 1. 開会 2. 議事 (1) 報告事項 ①木津川市コミュニティバスの利用状況について【資料 1】 ②南加茂台ワークショップの報告について【資料 2】 ③加茂～木津間バス実証運行の検討結果について【資料 3】 (2) その他 ①次回協議会の開催日程について ②ワークショップ開催のお礼と要望 ③相楽東部広域バスの運行について 3. 閉会 | | |
| 会議結果要旨 | 1. 開会 事務局より開会の宣言があった。 | | |

| | |
|--|---|
| | <p>協議会規約第6条第2項の規定により、大庭委員が議長に指名された。</p> <p>2. 議事 議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として今西委員を指名した。</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について 資料1に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>②南加茂台ワークショップの報告について 資料2に基づき、事務局から報告があり、確認した。</p> <p>③加茂～木津間バス実証運行の検討結果について 資料3に基づき、事務局から検討結果について報告があり、確認した。 確認後、事務局より「厳しい財政状況の中では新規路線・延伸の運行が難しいため、当面の間は継続審議としてほしい」と提案があり、継続して調査・検討していくこととなった。</p> <p>(2) その他</p> <p>①次回協議会の日程について 後日通知することとした。</p> <p>②ワークショップ開催のお礼と要望 事務局から協議会に対して提出のあった南加茂台ワークショップ開催のお礼と今後に向けての要望書の報告があった。</p> <p>③相楽東部広域バスの運行について 事務局から JR 関西本線（加茂以東）沿線地域公共交通活性化協議会が運行する相楽東部広域バスについて報告があった。</p> <p>3. 閉会</p> |
| <p>会議経過要旨</p> <p>◎議長 ○委員 →事務局</p> | <p>1. 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>①木津川市コミュニティバスの利用状況について 【配布資料】資料1 木津川市コミュニティバス利用実績 【主な意見・質疑等】 ○：通学線の利用者が大幅に増えているが、小学生の通学者が増えたということか。 →：1日あたり平均の児童利用者は平成28年度が9,85名であったが、平成29年度は13,6名であり、通学線の利用増の要因となっている。 また、大人の利用者についても前年度と比較して微増している。 ○：地域の人口が増えているということか。 →：対象地域の人口は増加していない。 ○：加茂地域では特別公開や観光に係るイベントにより利用者が増加しているとのこ</p> |

- とだが、観光協会とはどのような連携を行っているのか。
- ：浄瑠璃寺の急行バスやイベント情報をいただき、公共交通だよりに掲載している。また、ホームページ等のPRにおいても観光協会と協力するとともに、観光協会でも1日フリー乗車券を販売いただくなど十分な連携を行っている。
- ：木津地域も観光を通じた利用促進を観光協会と考えたらどうか。
- ◎：市民の利用が伸び悩む中で、観光はバス利用の安定化に非常に重要な役割を果たす。木津川市は観光資源が多く、観光利用でバスを活用してもらえるよう、引き続き観光協会と連携、推進してほしい。
- ：観光協会としては、バスの案内やフリー券の販売等の連携をしている。様々な計画を立て観光案内ができるよう努力していく。
- ：海住山寺では秋の特別公開が行われていたが、奥畑線は平日のみの運行となっている。奈良交通の臨時バスの結果を踏まえて、土日運行も検討されたい。
- ：観光・福祉や病院・買い物等の広域的なプロジェクトを立ち上げて、ニーズを把握してほしい。
- ◎：観光でバス利用を促すことは重要であり、さらなる情報発信を検討してほしい。多くの利用が想定されるため、分野横断的にさまざまな観点から協議会・市で検討していく必要がある。
- ：神童子線の利用が増加した要因は。
- ：9月の利用者が14名であり、神童寺への観光と聞いている。
- ◎：きのつバスは減少と増加が大きく分かれているため、今後利用促進を検討していく必要があるが、9月から木ー1が増え始めた要因は何か。
- ：9月は台風等の影響で雨天が多かったこと、また、夏休み期間が終わり通学利用者が戻ったことが要因と考えている。

②南加茂台ワークショップの報告について

【配布資料】資料2 南加茂台ワークショップの報告について

【主な意見・質疑等】

- ：参加した事務局の感想は。
- ：公共交通を必要としており、コミバスに限らず奈良交通バス・JR等の利便性を上げてほしいとの声をいただいた。意見で指摘された環境問題とバスについては理念になかったため、環境問題の視点から公共交通の利用促進を進めていくことも重要と気づかされた。また、南加茂台線のデマンドタクシー車両もどうすればいいのかこれから考えていきたい。市民の皆様と直接意見交換ができて非常に良い機会であった。
- ：ワークショップの応募数は。
- ：昨年度は加茂町瓶原地域から依頼があり、ワークショップを開催した。本年度は南加茂台地域のみであるが、地域から申し出があれば積極的に伺っていきたい。
- ：事務局から能動的に働きかけることはあるのか。
- ：老人クラブ連合会等に打診している。情報等があれば出向かせていただく。
- ：さまざまな立場の方がワークショップに参加していた。南加茂台はJRと奈良交通が大動脈であり、これ以上不便になったら困るというのが率直な意見である。南加茂台では高齢化、商店の撤退が進んでおり、協議会において高の原や西大寺へ

の路線も以前より提案している。人口比率が似ている神戸市北区築地が丘では、無人バスの実証運行がされているが、今後必要ではないか。

また、保育園前のバス停が非常に停めにくいと意見をいただいている。

高の原からバスで木津駅に行き、JRを利用して加茂駅に行く際、乗り継ぎが悪く、待ち時間が長い。

→：バス停留所は、わかりやすい場所に設置しているが、加茂タクシーと相談の上、少しでも動かせるようであれば検討していきたい。

乗り継ぎについては、全てを網羅することは困難だが、次のダイヤ改正時に検討する。

- ：加茂タクシーを利用した際に、フロントに予約乗合型タクシーというステッカーが貼ってあり、改善されていた。
- ：当初はマグネットをドアの両側に貼っていたが、劣化により吹き飛ばされることがあったため、その代わりとしてフロントに乗合予約型タクシーと表示している。
- ◎：無人バスについて、私見では実用化にもう少し時間がかかると思うが、運輸局の見解はいかがか。
- ：定時定路線で運行していると聞いているが、駐車車両があれば止まることはできるが、避けることができないため、公道上の完全無人運転までには先が見えていない状態である。10年、20年かけて技術開発するものであり、すぐには難しい。
- ：ワークショップにオブザーバーとして傍聴した。高齢化が進む地域においてワークショップという場は非常に有意義であると感じた。市の担当者だけでなく、事業者の方も参加してくれれば、もっと現実がつかめるのではないか。
- ：暗い色のバスを明るい色でラッピング、色付けしてほしい。また、奈良のぐるっとバスのように既存の路線が走らないような場所を運行してほしい。
- ：バス事業者の所有バスにラッピングを行うことになるため、一定期間が経過したら剥がす作業が必要となり、経費の面で難しい。次回プロポーザル時にバス会社からバス車両についての提案をいただきたい。なお、タクシー会社の車両については、今のステッカーがベストだと考える。

③加茂～木津間バス実証運行の検討結果について

【配布資料】資料3 加茂～木津間バス実証運行の検討結果について

【主な意見・質疑等】

- ：大野、法花寺野のバス停はどのあたりか。
- ：以前奈良交通がバス停を設置していた場所を想定している。
- ：山城郷土資料館にはバス停がないため、現在工事中の橋が完了したら袂にバス停を設置したらどうか。
- ：郷土資料館へのアクセスは上狛駅より徒歩で20分程度かかるが、橋の完成後、きのつバス（木-2）「鹿背山」「白口」のバス停からの方が近くなるようであれば、郷土資料館へ情報提供を行っていく。
- ：報告事項ではなく、協議事項ではないのか。
- 検討ルートは奈良交通が撤退した路線であり、このルートであればJRの方が便利

である。検討ルートに決定した根拠は。

→：南加茂台方面への運行は、きのつバス（木-1）の延伸となり、約3倍程度の費用を要する。また、コミュニティバスは交通空白地を埋めることを目的としているため、加茂地域でバスが運行していない「大野」「法花寺野」を通して木津駅まで運行するルートを検討した。

○：利用見込みが少ない場合、デマンド路線を延伸することも考えられるのか。

→：本協議会において加茂駅を中心に議論し、検討してきた経過もある。運行の決定ではなく、検討結果を報告させていただいている。

◎：地域がデマンドを望んでいないため、路線バスを前提に検討している。

○：デマンドに移行して4年経過するが、何の総括もされていない。市の負担や国庫補助金がどう変化したのか総括するべきである。検討している路線では利用者は伸びない。市民が提案したのに利用者が伸びなかったと言いつにされたくはない。

◎：地域が多くの方に路線バスを乗ってもらう努力をし、その声を市にぶつけて実現していくものであり、声があるけど乗らなかったでは意味がない。地域・事務局・協議会のそれぞれが役割を果たしていくことが必要。

○：経費の問題はあるが、市民が望んでいるルートで運行することが大事である。

◎：市民が望む路線は大事だが、予算や車両制約を事務局で勘案しながら、適宜検討を進めるべきである。

→：デマンドの総括については今後報告する方向で検討していく。

○：加茂駅を発着する案は前向きで良い。利用者視点でも加茂支所より加茂駅の方が良い。

○：協議会で加茂駅から木津駅までのバスがないと意見があった。今回の報告は、望むルートは別としても、意見をもとに実証運行しようとしているのか。

→：加茂～木津間の運行について、協議会の決定に基づき事務局で検討してきたところである。実証運行の検討について報告したものであり、実証運行を提案する趣旨ではないことをご理解いただきたい。

○：こうした経過で実証運行の検討が進められてきたが、加茂駅～木津駅間はJRがあるという意見があったため、確認したものである。

→：加茂～木津間の延伸は、JRの存在が重要である。JR加茂駅は本数・利用者が減少しており、奈良交通の南加茂台線も利用状況が良いわけではないため、地域の財産として利用促進をしていかなければならない。こうした中で山城病院や木津駅に継ぎなしで行きたいという意見があったため、検討させていただいたものであり、今までの考え方に変わりはない。

【事務局から提案】

→：市の限られた財源の中で、加茂地域全体を考えて様々な路線の検討を続けてきたところである。市内でも予算確保について議論してきたが、9月に市議会で認定を受けた平成28年度一般会計決算数値が非常に厳しいものであり、加茂～木津間の新規路線の運行は、当面の間は継続審議とさせていただきたいと考えている。廃案ではなく、コミバス・民間路線を堅持することを第一義として進めていきたい。

◎：現時点で、運行は平成30年度として検討していたが、実証運行は未定であり、

| | |
|----------------------------|--|
| | <p>継続審議しながらより良いものを作っていこうということか。</p> <p>→：市の財政状況を踏まえて、提案できる段階で判断していきたい。</p> <p>○：きのつバス（木-2）を延伸したほうが早いのではないか。</p> <p>→：資料の経費は、現状の路線から一部を加茂駅まで延伸した追加経費である。</p> <p>○：新規路線を運行するより延伸の方が経費を抑えられるのではないか。</p> <p>◎：バスの延伸・新規運行のいずれも、運転手や車両の必要に応じて金額が変わる。延伸することで費用が安価になるわけではない。</p> <p>○：工夫次第ではないのか。</p> <p>○：バスの経費はどれだけ車両を使うか、運転手が必要かということが大きく、バスの空き時間に利用するとしてもどれだけ利用者がいるかわからない。利便性が高いダイヤでは新たに車両・人員が必要になる。バス事業者としては、行政にできるだけ協力しようとしているが、運転手が不足している状況ではコストも掛かるため、高めの見積りとなっている。</p> <p>○：加茂～木津間にバスが通じる意義が大きい。ぜひ実現してもらいたい。</p> <p>(2) その他</p> <p>①次回協議会の日程について 翌年の1月中を目途に事務局で調整し、改めて通知させていただく。</p> <p>②ワークショップのお礼と要望について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>③相楽東部広域バスの運行について 会議結果要旨のとおり。</p> <p>・その他</p> <p>○奈良交通の関空行のリムジンバスを高の原駅から出発するようにしてほしい。</p> <p>○きのつバスの運転手の対応が非常に良かった。</p> <p>3. 閉 会</p> <p>以上。</p> |
| <p>その他 特記事項</p> | <p>なし。</p> |